

水道事業の広域化に関する市民説明会 概要 【丸子文化会館】

1 開催概要

開催日時	令和6年12月22日（日） 10:00~12:10
開催場所	丸子文化会館セレスホール 大会議室
参加者	77名
報道関係	2社

2 主な質疑応答

No	項目	質問・意見等	回答
1	施設整備	・丸子地域の生活に一番直結している腰越浄水場の状況はどうか。向こう100年使っていけるのか。そういう整理ができた上での話を期待しているがどうか。 ・広域化すると、中央（長野市）に予算を持っていかれ、僻地の方は後回しになるのが世間一般の通例で、丸子町が上田市と合併した場合も似たようなことがあった。まずは、腰越浄水場を完全な状態にして、その後に広域化の話を進めていただきたい。	・腰越浄水場は、老朽化が進んでいる。一部施設においては耐震化が必要で、広域化の中では、運営基盤強化等事業の補助制度を活用して、更新を考えている。場内は敷地が狭いため、移転も含めた中で、何とか早期に更新したいが、今しばらくこのまま使い続けていきたい。 ・上田市の水道事業は4市町村の合併後、水道は皆様の料金で賄われていることから、水質などのサービスの水準を合わせることを第1に考えてきた。その中で、整備が遅れている地域に集中的に投資を行い、現在は、地域全体が同程度のレベルになってきた経過がある。腰越浄水場の耐震化が遅れているのは事実で、この広域化に取り組んだ場合、補助制度を活用して、腰越浄水場の一部更新等も予定しており、染屋浄水場だけではなく、地域全体の安全安心を高めていきたいと考えている。
2	施設整備	上田市全体で、既に40年以上経過している構造物が大半を占めているのは分かったが、管路については、今後どのような状況で更新をしていくのか。	管路については、会計上の耐用年数は40年となっている。これは資産を償却する年数であるが、現在の新しい管種を採用しているものについては、一度布設したら、次回の更新は80~100年後を想定している。

3	補助金 事業規模	広域化が前提で話し合われている気がするが、補助金は結局、国民が負担するわけで、人口減少は、広域化とは関係なく起こる。子供たちも少なくなっている中で、1,000 億円もかけて広域化して大丈夫なのか。	・平成 26 年から、この地域におけるふさわしい水道事業について検討を重ねてきた経過がある。本日は、その検討の中で整理され、結果として取りまとめたものを皆様にお示ししている。 ・将来の人口減少、また水需要の減少等の課題がある中で、将来を通じて現状維持というのは大変厳しく、どうしても水道料金は上がっていく試算である。その中で、国の補助金制度をいかに有効に活用するかというのは、将来世代のご負担を少しでも軽減したいとの思いで取り組んでいる。
4	施設整備	・令和 3 年 7 月に広域化研究会設置とあるが、今日の資料も含め職員が資料を作成しているのか、それともコンサルに委託して基礎資料を作成しているのだとしたら、どこが発注しているのか。 ・広域化事業で 500 億円とあるが、浄水場送水管二重化整備（諏訪形～四ツ屋）が 282 億円で半分以上を占めている。県の企業局にそれぞれ負担金を払いコンサルに委託して資料を作ったとのことだが、やはり県営水道がこの事業を一番やりたいということではないか。特に上田市民には直接関係ない事業で、これで広域化を進めていいのかという懸念がある。	・令和 3 年度に実施した財政シミュレーションは、コンサルタントが作成したものである。各構成団体が負担金を出し合い、当時の事務局であった県企業局が発注している。その後、物価高騰等ある中で、再度同じ発注方法で、令和 5 年度に財政シミュレーションを行い、その内容を今回お示しした。ただし、この資料等の作成にあたり、コンサルタントが作成した内容を、各事業体の担当が改めて精査していたため、この時期の公表となったものである。 ・この上田長野間を一つの事業体とすることで、水運用が図れ、下流域の施設等の縮小や統廃合を視野に入れながら将来の経費抑制を図りたいとするもので、その中では、二重化事業は必須と考えている。下流域の施設統廃合が進み、経費の抑制が図れた場合、上田市民にとっても当然恩恵がある。また、上田市の課題である施設・管路の老朽化、耐震

			化を進めるうえで、上田市は運営基盤強化等事業の補助を重点的に要望してきたが、各事業体の思惑がそれぞれある中で、お互いが理解したことから、このような財政シミュレーションと施設整備計画になっている。
5	運営方法	単独か広域かという以前に、そもそも公営か民営かの話が一つの選択肢としてある。例えば民営化だったら外資に委託するという選択肢もあり、実際に全国ではそのような自治体もある中で、単独でも広域の場合でも、公営という考え方でよいのか。	運営等すべてを民間に任せるといような民営化ではなく、あくまで公営堅持で水道事業を運営していく考えである。これは、上田市はもちろん、広域化を検討している構成団体全てにおいて共通の認識である。外資という話では、海外の事例として大変問題があり、逆に民間から公営に切り替えたという事例もあることは承知している。
6	広域化の懸念	これだけのお金を使いやってみたが、でも駄目で民営化しますとはならないか。分離された下水道事業は民営化されないか。さらに新たな大きい組織としての直接採用による職員体制を目指すとするが、外国籍の方を採用するのではないか。表向きは民営化ではないというが、今後そういうことも考えているのか心配である。	事業展開も含めて、組織は相当大きくなり、新たな企業団の職員は、直接企業団が採用する形となる。採用した職員は、水道事業以外は基本的にやらないため、水道のスペシャリストが育てられるというのが、この直接採用という意味である。採用にあたり、国籍等はいろいろな考えがあり断言できないが、県や長野市、上田市などの職員採用に準じた形が考えられるということでご理解いただきたい。民営化の考え方は、これまでの説明のとおりであるが、上田市の下水道については、民間に浄化センターと言われる施設の運転管理を委託している状況もあり、下水道事業の方が民間との関わりは深くなっているというのが現状である。

7	危機管理 人材育成	・上下水道のような住民生活の基本インフラは、自治体単位で管理すべきものではないかと思っている。水道で困った時に電話するのは上田市の上下水道局で、職員が見に来てすぐ対応してもらえる、そういったものが上下水道事業だと思う。これが、仮に広域になった場合、どうなるのか非常に不安がある。 ・資料には「広域化には水道事業を支える専門人材の確保による災害時等の体制の充実、技術継承や人材育成などのメリットもあります。」と書かれているが、見方を変えれば、上田市はもうこういうことできない。だから、大きくして、お任せしますと言っているのと同じではないかと思い残念である。現在、高齢の職員が上田の水道を支えているとあるが、若い人を上田市で育ててもらいたい。何かあったらその人に頼める、将来 100 年にわたってこの水道を担っていける人材を上田で育ててもらいたい。	・地域を守る人材が遠くから駆け付けるとするのは、まず基本的に考えられないと思っている。新たな組織として企業団が設立された場合は、現在の各事業体の事務所等に現地事務所が置くことを想定しており、一定期間経過後、最適な窓口のあり方について検討する方向で考えているところである。 ・ご意見として頂戴する。
8	その他	水道法を変えることはできないのか。これだけ時代が変わり、水の消費量が減っている中で、他の地域に水を運用できないというのは、多分全国的な問題だと思うが、どう捉えているか。	平成 30 年に水道法が改正され、基盤の強化を図るための手段として、広域化、官民連携などが示された。将来の人口減少社会に対して水道を守っていくために水道法を改正したところである。今後、改めて水道法を改正するかについては承知していない。

9	事業運営 方針決定	・県営水道を上田市が買い取り、坂城町、千曲市に供給するということ はできないのか。 ・当然な考えであるが、上田市の収益になり、広域化を考え直す材料になるのかと思い伺った。要は、来年の2月に決めるには、あまりにも期間が短過ぎて、市民には全然良いか悪いか分からない状況である。もう少し時間的な余裕は取れないものか。	・県営水道を上田市営水道が買い取り、引き継ぐとなると、下流域は長野市の篠ノ井までとなる。上田市の今の職員体制では当然困難であり、現実的ではないと捉えている。 ・事業統合による広域化を行う場合、さらなる検討を進める上での指針、ルールづくりとして、基本計画の策定を進めている。基本計画は、お示しした素案に対し、意見を頂戴した後、令和7年2月に案としてまとめる予定である。その後、議会等でも説明をし、令和7年度以降になるが、それぞれの首長の合意を図り、初めて広域化に進むという方向性を行政が示すという流れを想定している。この広域化の最終的な判断は市議会となるが、企業団の設立は基本計画の合意後2～3年を目処としており、まだ相当の準備期間があり、この2月に企業団の設立が決まるものではないため、今後も皆様にご相談する機会は当然ある。
10	事業運営	上田市の水が、坂城町から長野市まで送れる、この水源があるのであれば、上田市の水を買ってもらい、それを資源にして上田市単独で継続する形はできないのか。また、そのようなことは、皆さんの中でも議題に上がらなかったのか。 今日の参加者は、単独事業を望んでいる方が圧倒的に多いように聞こえるが、そのような状況を踏まえて、協議いただきたい。	・上田市営水道のお客様にお配りする限りは十分な水量であるが、市外の下流域に送る能力は有していない。広域化した場合に下流域に送水するのは、県企業局が運営している諏訪形浄水場の水になる。 ・水道法では、もし水に余剰があったとしても、市営水道や県営水道の区域を超えての給水はきかないため、新たに国の認可を受けた用水供給事業という形で行うことは可能であるが、現状では下流域の事業体は水が不足しているわけではないため、上田市から水を買うということは現実的ではないと考える。

11	施設整備	・各地域に水の余剰があるのであれば、上田から篠ノ井までの送水管を新設する必要はないのではないか。 ・浄水場に 100 億円かかるというが、二重化する水道管には 282 億円かかるのに、それで良いと言えるのか。	・災害に強く効率的で持続可能な水道を検討する中で、各地域で水の余剰が出てきているため、基幹となる主要な浄水場を決めて、下流域の浄水場を整理することにより、地域全体で経費の抑制を図れないか考えたものである。例えば浄水場を作るにも 100 億単位の金額がかかり、管路を整備することで下流域の浄水場を廃止や縮小できるとすると、削減できた費用は、当然上田市にも恩恵としてくることになる。 ・このことは管路二重化整備により、将来に渡り、随時、そのような効率が図れることが可能となると考えるものである。また、地域全体の安全安心を図ることも考えている。管路二重化の費用である 282 億円という金額に対し、上田市にも遅れている管路、施設の更新・耐震化等の対策に、相当な金額の事業費を計上し、投資する計画で、トータルの中でメリットが当然あるという前提を踏まえていただきたい。
12	その他	いっぱい聞きたいことがあるが、相対で説明を聞くことは可能か。	上田市では、出前講座などもご案内している。もし皆様に集まりがある際などに、機会を設けていただければ、是非ご説明にあがりたいと考えている。
13	下水道関係	下水道は、上田市は単独でやっているが、坂城、千曲市、長野市は流域下水道ということで、県が経営している。下水道が一体的になっているという地域性があるのではないか。	上田市は単独で下水道事業をしているが、坂城町から長野市にかけては、流域下水道という事業で展開されている。長野市は全域が流域下水道というわけではないが、そのような状況である。

14	事業運営	長野市には簡易水道エリアということで、鬼無里村や信州新町の水道事業がまだ残っていると思うが、今回の統合する場合、この区域も含めた統合なのか心配である。特に長野市内の水道の配管の1/4がこの簡易水道の施設になり、それに対する更新費の負担も統合されると上田市を含めて全体で負担するような形になるのではないかな。	長野市は市町村合併により、豊野町や中条村、鬼無里村、戸隠村、信州新町など周辺の多くの町村と一緒にになったところである。水道事業については、合併前にはそれぞれで、簡易水道事業などを行っていたが、現在は、全部を一つにしまして、長野市上水道事業として管理している。したがって、広域をした場合、すべてのエリアを企業団で管理するようになる。
15	広域連携の 枠組み	塩田地域へ染屋浄水場から水を持っていくとのことだが、染屋浄水場自体が千曲川からいったんポンプで水を上げている。それをまた諏訪形浄水場からポンプで塩田へ送るよりは、上田地域のすり鉢のような地形を生かして、より効率的な水運用を考えると、塩田はどちらから言っても、武石や長和また丸子の水をそのまま持ってくることも考えられる。広域化には3事業体以上が集まれば良いと話を聞いたことがあり、上田と県水エリアの塩田・川西に、例えば長和町を含めた送水の形も是非検討いただき、より良い方向を模索していただきたい。	ご意見として頂戴する。
16	説明会関係	1回だけの説明会ではなく、複数回やってもらいたいし、出た意見を他の皆さんにも周知いただきたい。	説明会の概要はホームページで公表していく。皆様のご意見を市民の皆さんに、広く周知していきたい。
17	広域化全般	塩田に住んでいるが、塩田は県水の水で美味しくない。昔からずっと染屋浄水場の緩速ろ過の水を飲みたいと思っていた。広域は反対であるが、同じ上田市民なのに、同じ水が飲めないというのは不公平だと思う。塩田にも是非、染屋浄水場の水を通していただきたい。	様々な見解がある中で、同様の意見は多くいただいている。なるべく早くという要望の中で、少しでも早く解決できる手段として広域化を考えたということも踏まえていただければと思う。

18	組織・財政	・組織の効率化は、長野まで含めた形ではなく、上小地区でやった方が、レスポンスも良くなるのではないかな。 ・税金使い方がよくわからないが、水道料金にインフラの整備まで全部転嫁しないといけないのかどうか。もしインフラは市として整備をすることができるなら、少子化に向けて水道料金を抑えるということも必要ではないかな。	・上小地区で広域化した場合、上田市が中核となるが、課題である施設の老朽化への対応は可能と考えるが、組織体制の強化ということについては疑問がある。これは青木村や長和町とも相談する中の話であるが、上田市が基盤を強化した上で、その次に上小地区との連携ということでご理解いただいている。 ・水道事業に、市の一般財源（税金）を入れることは、一つの考え方としてはあるが、水道事業は独立採算性が原則であり、受益者が負担して、それを守るという考え方である。特にこの地域の難しい点は、市内には県営水道の他、民間や住民組合で運営する水道もある中で、上田市営水道だけ税金を入れることは理解が得ることは難しいと考える。
19	基本計画	基本計画の名称が上田長野地域水道事業広域化基本計画となっているが、自治体が大きいのは長野の方で、実際に企業団がスタートすると名称は長野が先に来るといったことはないかな。	これはあくまで計画の名前であるが、上流下流と考える中で、このように上田長野と呼んでいるところである。
20	施設整備	上田市営水道の現状として、浄水施設の経年化率が 55.6%で全国平均と比べ極端に高く、逆に浄水施設の耐震化率は 13.7%で全国平均よりも随分低い状況になっているが、これはどういうことが原因として考えられるかな。	水道料金も住民サービスの大きなウエイトを占めるものと考えており、料金の抑制を図りながら大事に使ってきたことが、結果として老朽化や耐震化対策の遅れとなっている。上田市の特殊性としては、染屋浄水場など緩速ろ過方式の浄水場が主であり、緩速ろ過方式は基本的に大きな改修をしなくても水の浄水ができる施設であるため、耐震化が図られず遅れている状況である。

21	広域化全般 説明会	・今回の広域化合併についてはあまり賛成ではない。国の補正予算では耐震化とか、それから 40 年を経過した管にも補助金を出すということで、国土交通省の方から補正が上がっています。広域連携しなければ、補助金が来ないし、耐震化や老朽化対策が進まないなど、いろんな話をしているが、そういう前提はずれてきているのではないかと思う。 ・市民説明会では、皆さん急に説明を受けてもよく分からないし、どうも納得できないという話が多かったように思う。上下水道審議会も傍聴したが、もう少し時間をかけてゆっくりやったらどうかといった意見もあったように記憶している。議会でも毎回4人ぐらいの議員が質問をしている。この説明会も含め、これまでの意見を受けて、局長の方では、どのように今後進めていくつもりか。年が明けたら決定をしてこうで行くのか、それとももっと時間をかけるのか、住民投票するのか、アンケートを取るのか、いろんなことで市民に周知していかないと、納得感がないまま進んでいってしまったのでは、後悔後に立たずと思ってお聞きしたい。 ・説明不足という話があった。広域連携が前提で物事が進んでいるように思えるが、これは市民の意見として、どうもゴールはないということで立ち止まったり、この計画に参加しないような事はあるのか。	・補助金の拡大について、まだ詳細な情報が示されていないが、広域化の補助制度と比較して大きくプラスに働くものではないと捉えている。今後、国から正式に示されたところで精査してまいりたい。 ・2月までに決めるというのは、あくまでも今後、上田市が広域化を進めていくのであれば、こういう方針で調整・協議していきましようという基本計画（案）で、他の団体との合意事項になる。これに基づいて詳細部分を決めていき、最終的には、令和7年度以降に市議会の議決をいただくようになる。そこに向けて調整をしていくため、今回、基本計画の素案をお示ししたところである。具体的な調整事項等は多岐にわたるため、基本計画の合意から企業団の設立までは、基本計画の中でも2、3年ぐらいという表記がされている。まだ皆様に説明不足な点はあるが、いただいたご意見を踏まえて、市長がしっかりと判断をして、行政として広域化に進むのか、そこを決定することになる。その後についても、タイミングを見て、その都度きちんと市民に情報をお示しし、対話を取りながら進めていきたい。 ・平成26年から職員中心に検討を進めてきた。各構成団体でもある程度合意なされており、上田市民にとってもメリットがあると捉えている。料金の抑制や組織の強化といったメリットを踏まえた報告書を今回お示ししたが、最終的にはこの説明会等のご意見を踏まえながら、市長が適切に判断していくものだと考えている。
----	--------------	--	--

22	施設整備	広域化は県営水道の二重化のためであり、上田市には全然メリットがない。負担する理由が全くないのに負担しろと見える。しかも不思議なことに、千曲川は坂城町、千曲市、長野市全部流れている。長野市にはもっと立派な水系も流れている。どうして、坂城町、千曲市は、先ほど浄水場を一つ作るのに 100 億と言っていたが、なぜ坂城町や千曲市は浄水場を作ること考えないのか。100 億程度だったら、千曲市の財政規模を考えれば楽勝じゃないかとも考えますが、なぜそれやってこないのか。管路の二重化広域化には参加しないで、恩恵を受ける皆さんに負担していただき進めて行くのが筋ではないか。 ・安全のために 2 重化が必要というが、確かに二系統の水路があれば、いざというときは安心です。ただし、多数の直下型地震を見ている中では、2 重化しても安心、安全には何にも意味がないという話も聞いている。それよりも、例えば上田市の塩尻から坂城町の鼠の方に管を繋げるとか、ネットワークをもっと充実させてやってみることも検討すれば安価な対策ができるのではないか。	広域化の事業の中には、上田市においても遅れている施設管路の更新等が進む恩恵があり、お互いが、それぞれ課題を解決できるものと考えている。管路二重化の位置づけは、下流域の安全安心、また代替性、効率が図れる効果を含んでいる。先ほどの浄水場 1 個 100 億という金額は例であり、100 億なのか 200 億なのか承知していないが、費用が抑制できるということが将来的に見据えられるというところである。 ・ご意見として頂戴する。
23	方針決定	2 時間の説明ではわからない。命の水の話であり、これを市議会議員と市長で決めてほしくない。踏み切る前に踏み切らない方法をまず考えて、住民投票お願いしたい。	市内には市営水道の他に、県営水道や住民組合の水道もあり、水道事業だけを特化して、住民投票がすぐのかどうかということがある。基本的には難しいところであり、賛否を問うことは慎重に検討する必要があると考えている。